1995年度幹事報告

庶務幹事この一年

高エネルギー物理学研究所　小林　正典

ある日突然，前庶務幹事の小杉さんから，放射光学会の次期庶務幹事にあなたが指名されたので引継をしたい，との連絡を受けて面食らった。これまで放射光学会の活動には特に関係してこなかった者に学会の庶務をやれとは乱暴な話と思い，その任には当たらずと断わってみたものの，すでに会長が決定したことなので，との話にきょとんとしたことを昨日のように憶えている。然し，前任者の小杉さんに色々と親切に教えていただきながら1月から3月までの間に見習いをつとめて，よちよちとスタートした。任期が1995年4月〜1996年12月と従来とは異なり長く，仕事を果たせるかどうかはなはだ心許ないが，放射光学会が健全に運営されていくよう幹事会の一員として微力ながら任務を果たしていきたいと思っている。

庶務幹事としての仕事は諸々ある。引継事項のなかで今期の幹事会に託された重要事項に，放射光学会としての賞を検討し，できれば制定すること，また，名簿の更新次期に当たるので時代に合わせた改訂をし出版することがある。賞の問題について幹事会で検討し，評議員会に提案して協議していただき，1996年1月の総会において考え方を会員の皆様に示した。評議員会や総会においての質問や指摘事項について幹事会でさらに検討して，1996年には前会長からの引継事項を形あるものにまとめたいと考えている。

名簿については，これまでのB5版からA4版に変更し「1995日本放射光学会会員名簿」として1月の前半には皆様の元に届いたはずである。卒業年次やe-mail addressもつけ加え充実させたつもりであるが，会員の皆様の役に立つことを願いつつ，よりよい名簿になるよう指摘していただければと思っている。

ところで，歴代評議員の専門分野は大まかに云って放射光の利用側と放射光の発生側とにわけられようが，その比率が適当にバランスしているか？という指摘がある。放射光学会がいつの時代においても中立性を保って健全に運営されるためには幅広く偏りのない会員の意向が反映されなければならない。適当なバランスがどのへんにあるのか，バランスをとる手だてがあるのか，難しい問題であり会員の皆様のお考えを何らかの形で寄せていただければと願っている。

最後になりましたが，1995年5月19日に開催された第27回評議員会において議長に選出された東京工業大学の籏野先生が1995年の評議員会の円滑な運営にご尽力されたことに深く感謝するところです。引き続き1996年もよろしくお願いいたします。また，よちよち歩きの庶務幹事がなんとか1995年を過ごすことができたのも，他の幹事の方々および特に西野さんをはじめとする放射光学会の事務局に負うことが大でありました。残りの任期についてもご協力のほどをよろしくお願いいたします。

(C) 1996 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

1995年度幹事報告

行事幹事この一年

高エネルギー物理学研究所 安藤 正海

この1年間の活動報告をいたします。まず前組織委員長の渡辺誠さんから行事幹事とはなにかについて懇切丁寧な教授を受けました。この1月に開催された第9回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムの開催場所は前期の組織委員会で岡崎と決定された上で，今期の組織委員会において実行委員会が結成され，名大の正畠さんが委員長，分子研の木下さんが副委員長に就任され，合同シンポが成功裏に終わりましたことはご承知のことです。宿舎等心配はしましたが“地元”のご努力であそこまでうまくいきました。ついでにプログラム委員会も別個に設けられることになりましたが，委員長は正畠さんがおやりになり，企画は正畠（名大），見附，小杉（分子研），水木（NEC），大門（阪大），春日，安藤（KEK）がそれぞれの小企画を担当しました。

行事委員会は第8回日本放射光学会年会総会でご報告しましたように雨宮（KEK），鈴木（高輝度光センター），浅野（原研），合澤（川崎重工），平井（日立基礎研），安藤（KEK）の体制でのぞんでおります。現在までの企画としては“検出器の講習会”，“コヒーレントX線発生と利用ワークショップ”があります。検出器の講習会は雨宮さんに委員長をお願いし，本年2月7〜9日の間，葉山の総合研究大学院大学で開催予定です。一方コヒーレントX線発生と利用ワークショップは平井さんに企画をお願いし，本年2月29日〜3月1日の予定でKEKにおいて開催される予定です。これは国際ワークショップです。海外からも10名程度の参加が見込まれ，これからの放射光科学の大きい流れのひとつになっていくものと思われます。ついでに機動力を発揮した例としては，西播磨で開催されました兵庫県主催（千川委員長）の放射光国際シンポジウムの流れで，東京で開催されました日本学術振興会第145委員会放射光小委員会（佐々木委員長）の会合へ20名に限って出席を認めて頂き，放射光学会からみて“放射光セミナー”としました。20名の枠はすぐにいっぱいになり好評でした。お世話になった佐々木委員長，有留幹事にこの場を借りて感謝したいと思います。

1年間は少々長いものです。冨家会長の就任が決まってから程なくして冨家さんから電話があって「行事幹事をやってくれ」といわれた時は，愛する放射光学会でありましたので，行事幹事の仕事がどんなものであるのか全く分かっていなかったにも拘らず，「はい喜んで」と引き受けた次第であります。何しろ冨家さんは昔の上司であります。断わることは毛頭考えていなかったのであります。

実際に仕事をおおせつかってみますと他と同様行事は大変です。しかけに1年はかかりますので刈り入れは次の年です。2年目も行事をしかけると刈り入れは3年目となり際限なくなります。行事幹事は1年間で燃え尽きるので十分かと思います。皆さん任期について再考して下さい。

放射光学会年会が放射光科学合同シンポのお世話をすることになって以来，行事幹事が合同シンポの組織委員長になるということは驚きでした。放射光学会独自の企画とは別に合同シンポの企画

調整にもあたる訳ですから。組織委員長と行事幹事とは2足のわらじを履いている感じではありますが，一体感は全くありません。むしろ合同シンポに関しては行事委員会の中に合同シンポ担当をおき，各施設のシンポ担当者と組織委員会を形成したほうがすっきりしているというのが私の現在の見方です。これについてもみなさんのお考えを聞かせてください。

行事委員会は独自の予算はもっておりません。1企画に対してわずか“10万円”の初動資金があるだけです。現状では大きい企画は走らせることはできません。そのためにも財政上足腰を鍛える必要がありますね。その上で何代かのちの行事委員会において大きい企画がでてくる日が来ることを夢みたいと思います。

放射光科学の発展のためにとられた方策のひとつである合同シンポについても，みなさんよく考えてください。

おわりに西野さんをはじめとする非常に有能な事務局といっしょに冨家体制を支えております。事務局の奉仕精神はわれわれの比ではありません。事務局に対する最大の感謝の言葉をもって1年目を終えたいと思います。

1995年度幹事報告

編集幹事この一年

お茶の水女子大学　浜谷　望

「編集」という中学校以来の作業を2年9ヶ月の間させていただきました。暗中模索，手探り状態でスタートしましたが，編集委員・事務局の皆さん，そして記事の執筆を快くお受け下さった多くの方々に支えられて，「放射光」を滞りなく発刊することができました。放射光分野の研究者の方々の情熱にあらためて敬服しております。

学会総合活動検討委員会から会誌発行に関する提言を受けて，平成7年度から年5回の発行に踏み切りました。記事数の減少が心配されましたが，従来通りの内容の豊富さで発行できたと思っております。特に第5号の「VUV11特集」では非常に多くの方々のご協力を仰ぎ，高いレベルの解説を満載できました。この場を借りてお礼申し上げます。二色刷のとりやめも心配でしたが，グレーもなかなかいいのではないか，という意見にほっとしました。また幸いにも学術定期刊行物の科研費補助を受け，財政的にも何とかやりくりできました。これらも全て，執筆者の方々，編集委員，事務局のご努力に負うところです。ありがとうございました。

放射光科学はこれからさらに成長し，発展する分野に違いありません。会誌の重要性もますます高まることでしょう。今後の皆様のご活躍と会誌の発展をお祈りして，編集幹事の報告とさせていただきます。

1995年度幹事報告

渉外幹事この一年

東北大学電気通信研究所 庭野 道夫

渉外幹事をお引受けして，1年が経ちました。お引受けするとき，冨家先生からは「君ならやれる」といわれ，事務局の西野さんからも「ほとんど私どもがやりますので大丈夫です」と心強いご支援をいただいて，気安く引き受けてしまいました。しかし，渉外幹事の仕事について何もわからず，とりあえずは「障害」が起こらないように努めてきました。私がしたことといえば事務局の西野さんから送られてくる他の学協会からの協賛依頼の問い合わせに，「イエス」とお答えしただけでしたが，私個人としてはそれなりに勉強となりました。世の中にこれほど多くの学会・協会があったのかということと，研究会・シンポジウム・国際会議・・・と催し物がいかに多いかということでした。来年度も引き続き渉外幹事を務めさせていただきますが，今後ますます増えてくると予想される協賛や後援依頼に対して，学会として「障害」が生じない範囲で交通整理していく必要があると思っています。

学会では，事務局のご努力もあり，ホーム・ページが開設されました。現在のところ，数ある学協会のなかでホーム・ページを開設しているところはそれほど多くはありません。ですから放射光学会はかなり早い方であると思います。このホーム・ページは会員以外の，とくに若い人によって「のぞき見」される機会が多いため，宣伝効果は十分期待でき，学会の新しい「窓」となります。また，海外からもアクセスできることも大きなメリットです。英語版のホーム・ページの作成も含め，ホーム・ページの内容をさらに充実させるために，会員の皆様のご協力をお願いいたします。

1995年度幹事報告

会計幹事この一年

東京大学物性研究所 柿崎 明人

冨家会長のもとで会計幹事を勤めさせていただいて1年になる。会計上の具体的な作業はすべて事務局が処理しているため，幹事の仕事といっても実際にお金を数えるわけではない。会計幹事の仕事は，歴代の幹事がそうであったように，学会の会計全般に目を配り，財政基盤をより強固なものにして，将来にわたって様々な活動が円滑に行われるように努力することであろう。

放射光科学の発展に伴い，学会の会員数は着実に増加し，1000名を越えようとしている。数年前に，評議員会で若手会員の増加について議論していたことが信じられないほど，学生会員，若手研究者・技術者の数も多くなっている。また，学会活動の拡大とともに学会の予算規模も年を追って大きくなっている。しかしながら，学会の財政基盤は脆弱である。学会の収入の1／3が会誌の広告収入であることをみてもそれは明らかである。賛助会員の減少，会費滞納者の増加など，早急に改善策を講じなければならない問題も多い。会費の銀行振り込み，FAXによる連絡など，会員の便宜と予算の節約を考えて取り入れた方法が十分に機能せず，経費の負担だけが残るという現実もある。特に会費の銀行振り込みは手続きをすませた会員が多ければ多いほどその学会の予算節約に役立つが，銀行振り込みして下さっている会員の数は全会員の1／3にも満たない。

今年度は，この1年で明らかになった様々な会計上の問題を少しでも改善していきたいと考えている。会員のみなさまのご協力を切にお願いする次第である。

一口メモ

猫　柳

早春になりますと，葉より早く尾状の花序をつけ，蕾の時には赤く，ふくらむに従って，皮がはがれてきまして，白い絹毛の花穂が現れてきます。

やなぎ科の落葉樹でして，日本中の山野の水辺に自生しており，根元から枝分かれし，若枝には灰色の柔らかい毛が密生しています。葉には細い鋸歯がありまして，裏面は絹毛が密生して灰白色となります。

花穂がネコのしっぽに似ていますので，猫柳と名付けられたと言われています。別の名をかわやなぎ，えのころやなぎと呼ばれています。えのころは犬の子のことでして，花穂をやはり犬の尾に見たてたものと思われます。

梅雨時に切枝を地面に挿すのみで簡単に増やせますので庭木として使ってみてはいかがでしょう。

(K. Ohshima)